

(案)

農薬評価書

トルクロホスメチル
【抜粋】

2019年3月1日

食品安全委員会農薬専門調査会

(2) 28/30 か月間慢性毒性/発がん性併合試験（ラット）

Fischer ラット（主群：一群雌雄各 55 匹、中間と殺群：一群雌雄各 10 匹）を用いた混餌（原体：0、100、300 及び 1,000 ppm⁴：平均検体摂取量は表 31 参照）投与による慢性毒性/発がん性併合試験が実施された。投与期間は雄 28 か月間及び雌 30 か月間であった。本試験において赤血球及び脳 ChE 活性が測定された。また、BSP による肝機能検査が実施された。

表 31 28/30 か月間慢性毒性/発がん性併合試験（ラット）の
平均検体摂取量

投与群		100 ppm	300 ppm	1,000 ppm
平均検体摂取量 (mg/kg 体重/日)	雄	4.12	12.3	41.6
	雌	4.78	14.7	48.6

赤血球 ChE 活性並びに BSP 肝機能検査結果に対する影響は認められなかった。脳 ChE 活性については、脳の採取が適切に実施されなかったことから、評価に用いなかった。

検体投与により発生頻度が増加した腫瘍性病変は認められなかった。

本試験において、いずれの投与群においても毒性影響は認められなかったの
で、無毒性量は雌雄とも本試験の最高用量 1,000 ppm（雄：41.6 mg/kg 体重/日、
雌：48.6 mg/kg 体重/日）であると考えられた。発がん性は認められなかった。
（参照 7、9、10）

⁴ 6 か月間亜急性毒性試験（ラット） [10. (3)] において、1,000 ppm 投与群の雌で肝及び腎絶対及び比重量の統計学的有意な高値が観察されたことから、本試験の最高用量は 1,000 ppm に設定された。その他の試験結果も総合的に判断し、本試験における用量設定は妥当であると考えられた。

(1) 3 世代繁殖試験（ラット）

SD ラット（P 世代：一群雌雄各 30 匹、F₁ 及び F₂ 世代：一群雌雄各 25 匹）を用いた混餌（原体：0、100、300 及び 1,000 ppm⁵、平均検体摂取量は表 34 参照）投与による 3 世代繁殖試験が実施された。

表 34 3 世代繁殖試験（ラット）の平均検体摂取量

投与群			100 ppm	300 ppm	1,000 ppm
平均検体摂取量 (mg/kg 体重/日)	P 世代	雄	6.9	20.5	70.6
		雌	8.9	26.2	90.5
	F ₁ 世代	雄	7.9	23.4	79.6
		雌	9.2	26.9	98.5
	F ₂ 世代	雄	7.6	23.8	78.2
		雌	9.0	28.4	96.1

本試験において、いずれの投与群においても毒性影響は認められなかったの
で、無毒性量は親動物及び児動物とも本試験の最高用量 1,000 ppm（P 雄：
70.6 mg/kg 体重/日、P 雌：90.5 mg/kg 体重/日、F₁ 雄：79.6 mg/kg 体重/日、
F₁ 雌：98.5 mg/kg 体重/日、F₂ 雄：78.2 mg/kg 体重/日、F₂ 雌：96.1 mg/kg 体
重/日）であると考えられた。繁殖能に対する影響は認められなかった。（参照
7、9、10）

⁵ 6 か月間亜急性毒性試験（ラット） [10. (3)] において、1,000 ppm 投与群の雌で肝及び腎絶対及び比重量の統計学的有意な高値が観察されたことから、本試験の最高用量は 1,000 ppm に設定された。その他の試験結果も総合的に判断し、本試験における用量設定は妥当であると考えられた。